

## 7/14-20 #1使徒行伝の継続-キリストの団体的な継続

I.使徒行伝の継続は、キリストの継続であり、キリストのからだの実際である成就された神・人の団体的な生活です。A主は言われました、「私の父は今に至るまで働いておられる。だから、私も働いているのである」(ヨハネ5:17)。これが見せているのは、サタンの反逆と人の墮落以来、神は今に至るまで働いており、主も働いているということです。B使徒行伝は神の働きの記録です。使徒第28章以後、神の多くの器がなおも彼の働きを遂行しています。神の働きは継続していて、止まったことはありません。C神の働きは前進して、王国に至り、更には新しい天と新しい地に至ります。神は常に前進しています。彼は決して止まりません。私たちはこれを知り、これを信じるなら、主を賛美するでしょう。新エルサレムに至っても、彼の奴隷たちは彼に祭司として仕えます。D聖霊がキリストの信者たちを通してキリストを宣べ伝え、彼を増殖させ、繁殖させ、拡大させる働きは、まだ完成しておらず、長い期間にわたって継続する必要があります。E.1使徒6:7の「(神の言葉は)成長し」は命の成長を指しており、神の言葉が命の事柄であって、人の心の中へとまかれた種として成長し、私たちの内側でキリストを増殖させ、神を増し加えるためです。2使徒12:24の「増し加わった」は、数におけるキリストの増し加わりを指しています。実は、弟子たちの増し加わりは言葉の成長にかかっています。3新しい弟子たちは「主に加えられて」、キリストの各部分、キリストの肢体となります。Fそのようにキリストを増し加え、増殖させ、拡大させる福音の働きは、神の新約エコノミーにしたがっており、神のために多くの子たちを生み出すことです。それは、彼らがキリストの肢体となって彼のからだを構成し、神の永遠のご計画を遂行し、彼の永遠のみこころを成就するためです。これは使徒行伝に続く21の書簡と啓示録に詳しく啓示されています。G神は団体的な輝く器、証しの器を求めているので、神の子供たちはキリストのからだに対する感覚の中へともたらされ、からだの生活をするを学ばなければなりません。そうでないと、彼らは神の御手の中で役に立たなくなり、神の目標を決して成就することができません。1コリント12:12 それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、キリストも同様だからです。II.使徒行伝におけるキリストの継続は、聖書の中で預言されています。Aイザヤ42:4は、キリストが神の公正を地に確立するのを終えるとき、再び来ると言っています。公正を地に確立するとは、神の救いを確立することを意味し、この救いはキリストに対する神の義なる裁きの

結果です。彼は衰えず、落胆せず、ついには公正を地に確立する。海沿いの地は彼の教えを待ち望む。Bイザヤ53:10は、復活におけるキリストの継続について預言しています、「彼は...彼の種を見る。また彼の日々を延ばす。そしてエホバの大いなる喜びが彼の御手の中でそれを成し遂げる」1この種(子孫)は団体の種、キリストのからだとしての召会であり、一粒の麦としてのキリストの死によって、また彼の増殖する復活によって生み出された多くの麦粒、すべての信者から成っています。エホバのしもべとしてのキリストは、復活した命を与える方、命を与える霊であり、種を生み出して、彼の継続としての彼のからだを建造し、それはエホバの喜び、またキリストの満足となります。2キリストが「彼の日々を延ばす」ことが意味するのは、今日キリストが彼の信者たちの中で生きることによって、彼の日々を延ばしているということです。彼のからだとしての彼の信者たちは、彼の延長です。3神の大いなる喜びとは、多くの子たちが彼から生まれ、キリストの肢体となり、キリストのからだとしての召会、キリストの団体的な表現を構成するのを見ることです。Cイザヤ53:11は、キリストが「自分の魂の産みの苦しみの実を見て満足する」と言っています。キリストの魂の産みの苦しみの実は、キリストの継続として、キリストの復活の中で、またキリストの復活を通して生み出されたすべての項目を暗示します：1手順を経た方、最後のアダムとして、キリストは霊なるキリストの実際としての命を与える霊と成り、命を分け与えることを通してご自身を増殖しました。2首位である方、万物の中で第一位である方として、キリストが死人の中から最初に生まれた方となったのは、神の新創造を生み出すためであり、またキリストがからだのかしらとなるためでした。3神・人として、キリストは彼の人性の中で神から生まれました。それは、彼が神性と人性の両方において神の長子となり、原型となって、多くの子たちを彼のかたちに同形化するためでした。4復活の命として、キリストは彼のすべての信者を再生し、彼らを彼の兄弟たち、また神の多くの子たちとしました。彼らは神の家族の者たちであり、神の王国、また神の尊い嗣業となります。5一粒の麦として、キリストは多くの麦粒となりました。これらの麦粒は彼の増し加わりであり、また彼のからだ(一つパン、召会)の構成要素です。6命を解き放つ死を通して、また命を分け与える復活をもって、キリストは彼の魂の産みの苦しみの結果である団体の種を生み出し、復活の中でその種を見て満足しました。7信者たちの命として、復活したキリストは新しい人のすべての肢体であり、またすべての肢体の中にいます。Dミカ5:2は、ベツレヘムにおいて

キリストが肉体と成ることに関して預言しています、「彼の出て行くことは太古から、永遠の日々からである」**1**キリストの出て行くこと、彼の現れは、継続的な事柄です。肉体と成った時、彼の出て来るが始まりました。肉体と成った後、彼は以下のことを経過して継続して出て行きました。それは、人の生活、死、復活、昇天、究極的に完成された霊(すなわち、キリストご自身の実際)の注ぎ出し、福音の宣べ伝えを通して彼が人の住む全地に拡大することです。これらすべては、キリストの出て行くことの重要な段階です。**2**彼の出て行くことは停止したのではなく、今日も継続しています。キリストの出て行くこと、彼の現れは、彼が勝利者、勇士たちと共に戻って来て、反キリストを打ち破り、彼を火の池の中へと投げ込むとき、サタンがアビスの中へと投げ込まれ、キリストが彼の座を設けて王として支配するとき、究極的に完成します。その時、彼の現れは完全になります。**3**これらの旧約の預言は、キリストの継続に関する聖書の最大の預言において頂点に達します。マタイ16:18で主イエスは言われました、「私は...私の召会を建てる」。

**1**マタイ第16章において主によって開始された召会の建造についての預言は、エペソ4:13-16(特定の方法で召会を建造することに関する預言)において使徒パウロによって継続され、この預言は今日、成就されていないままです。エペソ4:13 ついに私たちすべては、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達するのです。**2**この預言はまた、キリストの花嫁の用意が整えられることとして見られます。今日それは依然として成就されていません。召会の建造に関する主の預言が成就されることと、彼の花嫁の用意が整えられることは、彼の再来をもたらします。今は主がご自身の預言を成就する時です。**III. 使徒パウロは、すべての信者(キリストのからだの肢体)の模範として、キリストを生きてキリストを大きく表現し、キリストの継続となりました:****A**パウロはキリストの弟子であり、キリストを見て、キリストに聞き、イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学びました。**B**パウロはキリストの選びの器であり、彼を内容とし、彼で満たされ、彼をあふれ流し出して、彼の豊満となりました。**C**パウロは祈りの人でした。**D**パウロはからだに依り頼み、あらゆることをからだの中で、からだを通して、からだのために行ないました。**E**パウロは主の御名を呼び求めることを実行しました。**F**パウロはすべてを含むイエスの霊(苦難のための満ちあふれる強さを持つ人の霊)によって生きました。それは彼の宣べ伝える務めのため、人の命の中にあって人類

の間で人類のために遂行された苦難の務めのためであり、それはキリストのからだを建造するためでした。**使徒16:7** 彼らがムシヤに来た時、ビテニヤに入って行こうとしたが、イエスの霊が彼らを許さなかった。**G**パウロは、ミングリングされた霊(神の霊と彼の人の霊がミングリングされて一となった霊)の中で生きました。**H**パウロは、本質上、彼の存在のために喜びの霊で満たされており、エコノミー上、彼の機能のために力の霊で満たされていました。**I**パウロは、正しい純粋な良心を常に持とうと、自分自身を訓練しました。**J**パウロは、いつも主の中で喜び、絶えず祈り、あらゆることで感謝する生活をしました。**K**パウロは神と連合し、神によって支えられて、イエスの御名の中で大胆に福音を語り、イエスの証しを地の果てにまで拡大しました。**L**パウロはイエスの人性の中で聖徒たちをはぐくみ、キリストの神性の中で、神の永遠のエコノミーのすべての真理をもって彼らを養い、彼の生活の中で、「受けるよりは、与えるほうが幸いである」との主イエスの言葉を表しました。**M**パウロの四回目の務めの行程は(使徒第27-28章)、特別な方法で彼の生活、彼がキリストを生き、キリストを大きく表現し、キリストの中でいっさいの事を行ない、キリストを追い求めて、キリストの中に見いだされるという生活を見せています。**ピリピ1:20**そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。**3:9**そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づく私自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持つて。

**1**使徒の長い、不幸な、監禁された航海の間中、主は使徒を主の超越性の中に保ち、思い煩いの領域をはるかに超えた生活をすることができるようにしました。この生活は、完全に威厳があり、最高水準の人性の美德を伴っており、最も卓越した神聖な属性を表現しました。**2**...これは、すばらしい、卓越した、奥義的な神・人であり、彼は福音書の中で生き、彼の多くの肢体の一人を通して、使徒行伝の中で生き続けました!これが、肉体と成り、十字架につけられ、復活し、神が高く上げたキリストの生ける証し人でした!**IV. 召会の究極的な結果は、未来の永遠における新エルサレムであり、神の完全な、永遠の表現です。これは、私たちが使徒パウロの模範に従うとき、今日すべての福音の宣べ伝えの実際と目標であるべきです。...「大胆に、妨げられることなく、神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストについての事柄を教え続けた」(使徒28:31)。**